

2023年6月1日

2022年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2022年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2023年5月25日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

決算のうち事業活動収支の概要をご説明いたします。事業活動全体では、事業活動収入計369.9億円、事業活動支出計344.6億円により、基本金組入前当年度収支差額は25.3億円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支差額は30.3億円の収入超過です。教育活動収入の主なものとして、授業料等の学生生徒等納付金285.2億円は、大学コミュニティ人間科学部や学費改定の年次進行効果などにより、学院全体で前年度比7.8億円の増収となりました。寄付金10.0億円は、個人からの高額のご寄付があった前年度と比較すると10.7億円減少しています。経常費等補助金32.8億円は前年度に増加した分の反動減などにより5.8億円減収となりました。教育活動支出のうち、人件費187.8億円は前年度比5.5億円の減少となりました。教育研究経費124.9億円及び管理経費17.3億円には、幼稚園園舎建替計画に係る既存建物の解体撤去費6.5億円、大学修学支援制度による奨学費計上分5.6億円、ICTネットワークシステム経常経費5.1億円などが含まれています。光熱水費11.3億円は電気料金の高騰などにより、前年度比4.7億円の増加となりました。

教育活動外収支差額は5.7億円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額の二つを合わせた経常収支差額は36.0億円の収入超過となりました。

経常的な収支を除く特別収支差額は、既存建物の解体撤去や女子短期大学の図書を大学に移管した際に生じた除却などにより、10.7億円の支出超過となりました。経常収支差額と特別収支差額の合計が、基本金組入前当年度収支差額25.3億円になります。

基本金組入額と取崩額では、女子短期大学の閉学に伴い取り崩した基本金を、大学・法人本部等へ組み入れたため、双方に大きな額が計上されています。

このほか、資金収支計算書では、施設関係支出に大学N棟エレベータ設備更新、大学相模原キャンパス熱源更新などを計上しています。また、安全安心なキャンパスづくりのため計画的に実施している工事として、当期は大学17号館本多記念国際会議場などの天井耐震補強工事を行いました。

これまで管理経費として計上してきた学院の年金制度への拠出金は、当年度をもって拠出計画が終了することから、年金信託契約を終了し、今後は学院が年金資産を管理運用することとなりました。そのため当年度の拠出分は、管理経費ではなく特定資産への繰入支出として計上されています。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症による制限が徐々に緩和され、学校本来の活動が再び活発に行われるようになってきました。2023年度は、大学新図書館棟の完成が予定されており、幼稚園園舎建替計画や、2024年度に迎える学院創立150周年記念事業へ向けた取り組みも本格化します。引き続き、質の高い教育研究の実現を目指すとともに、財務基盤の強化に努めてまいります。

以上